



皆さんは主治医をおもちでしょうか? 「病院」ではなくて「主治医」という医師個人の名前なのですが。いない? なぜでしょう。

お住まいや勤務先の近く、また、交通の便利なところにもお医者さんはいると思います。病院勤務のお医者さんも多いでしょう。

ご近所の評判はどうでしょうか? 買い物の時などにいろいろ聞いてみましょう。専門はどんな診療科でしょうか? 同じ町の中や勤務先以外の特定の病院に検査のお願いや専門医への紹介もしてくれるでしょうか? 患者さんへの対応はどうでしょうか? 常日頃からいろいろ評判を聞いておくことです。

ちょっとした風邪や検査などで受診してみるのもよいでしょう。院内の雰囲気からわかることもあります。

特に具合の悪くない時から、お医者さんを探しておく、軽い症状や定期検査、予防接種などで診察を受けてみることです。

ご自分との相性もあるでしょう。普段からのお付き合いができてくると、週末や夜でもちょっとしたことを相談できるかもしれません。お互いに共通の趣味があればもっとよいかと思えます。

こんなお付き合いができてくるとよいですね。いろいろな専門の病気になり、ほかの医師を紹介される、ほかの病院でセカンドオピニオンを紹介してもらったとしても、結局は自分のことを普段からよく知っている、ご自分の性格や家族構成なども知っている“主治医をもつ”ことが大事なのです。



黒川 清 (くろかわ きよし)

政策研究大学院大学アカデミックフェロー、Health and Global Policy Institute 代表理事

東京大学医学部卒業後、同大学院医学研究科修了。1969-84年在米。ペンシルバニア大学医学部などを経て、79年UCLA内科教授。帰国後、89年東京大学内科教授、96年東海大学医学部長。日本学術会議会長・内閣府総合科学技術会議議員(2003-07年)、内閣特別顧問(06-08年)、WHOコミッショナー(05-09年)などを歴任。11年12月国会の福島原子力発電所事故調査委員会委員長。また、国際科学者連合体の役員・委員や国際腎臓学会理事長、国際内科学会議長などを務め、幅広い分野で活躍。ブログ<<http://www.kiyoshikurokawa.com/>>

(撮影:佐久間哲男)

